

スポーツの世界では、「イメージトレーニング」という言葉をよく耳にします。「イメージトレーニング」とは、自分が試合本番でプレイしている姿を想像することで、心理的ストレスを解消したり、試合展開を確認したりするものです。これは、心拍数を意識的にコントロールさせるなどかなり本格的なトレーニングから、アマチュアが本番で緊張しないようにするための簡単なトレーニングまでありますが、スポーツに限らず、普段の仕事や日常生活に応用できるものです。

私は、平成 11 年 4 月に弁理士登録をし、早 6 年目を迎えました。最初の数年は、仕事を覚えるのに精一杯で（今もそうですが）、自分の仕事をイメージするような余裕はありませんでした。しかし、ここ 1 年くらいから、何となく自分の仕事にイメージを伴うようになってきました。そのイメージとは、具体的に以下のようなものです。

(1) 漫画家（手塚治虫先生）

弁理士の仕事の大半は書類作成です。そして、そこには期限が付きものです。そういった意味で、弁理士の仕事は漫画家の仕事に似ているように思います。漫画の神様といわれた手塚先生は、数多くの連載を抱えながら、締め切りというプレッシャーに押しつぶされず、完成度の高い作品をいくつも発表されてきました。幕末の青春像を描いた『陽だまりの樹』、天才外科医を主人公にした『ブラックジャック』、アドルフという名の 3 人の人生が交差する『アドルフに告ぐ』など、手塚漫画は単におもしろいだけではなく、深い感銘を受けるものばかりです。弁理士の技術的・法的書類と、漫画家の娯楽的作品との違いはありますが、私も締め切りをしっかりと守り、少しでも完成度の高い書類を作成していきたいと思っています。

(2) 野球選手（イチロー選手）

弁理士の仕事は、会社で必要な仕事の一部分に過ぎません。そういった意味で、野球の一選手と同じだと思います。野球は 9 人でやるものであり、一人でやるものではありません。しかし、イチロー選手の存在は、単に 1/9 の存在ではありません。打てないときは守りで貢献する、良い当たりでなくても得意の足をいかして内野安打で出塁するなど、一選手であるイチロー選手の存在が、チームの勝利に大きく貢献しています。弁理士の仕事も、単に特許や登録を取得するだけではなく、素速く出願する、単なる出願に終わらせないなど、いろいろと貢献できることはあるように思います。私の仕事が、依頼者の業績向上に少しでも貢献できるようにしていきたいと思っています。

(3) 探偵（シャーロックホームズ、明智小五郎、金田一耕助、浅見光彦など）

弁理士の仕事の中には、調査があります。特許（登録）できるか否かの調査、権利侵害の調査などですが、調査の過程ではいろいろと推理しながら作業を進めることがあります。そういった意味で、事件を推理する探偵の仕事に似ているように思います。探偵は、まず事件の問題点を洗い出し、事件の背景・状況などをふまえながら、分析・判断していくものです。私は、探偵のような正確な分析力・的確な判断力は弁理士に必要なことだと思います。実際の調査では、推理小説のように上手く解決できることは少ないでしょうが、それであっても依頼者にとって信頼できる正確な分析・的確な判断の出来ている調査及びその報告をしていきたいと思っています。

以上、手塚先生、イチロー選手、名探偵の仕事ぶりをイメージし、少しでもそれに近づくことが、今の私の目指す弁理士像です。